被害対策における集落の環境管理

兵庫県森林動物研究センター

集落は条件の良い採食場所

- □質の高い餌が食べられる
 - ●果樹や農作物は栄養価「高」、可食部「大」
- □苦労せずに食べられる
 - ◆高栄養の餌が集中して存在する



集落は危険?

□ 過疎、高齢化が進行、飼い犬の係留 集落に近づいても脅威が少ない



□ 耕作放棄地の拡大·里山林の荒廃化 身の潜め場·隠れ場が増加



集落には...

「被害と感じない」餌がたくさん

- 廃棄農作物、生ごみ
- 現在利用していない果樹(カキ、クリ、柑橘など)
- ひこばえ、雑草・・・

野生動物を集落に誘引する

栄養状態がよくなり、加害個体が増える

食べても怒られないので人 や集落に馴れる







獣害対策の基本的な考え方

- 1. エサをなくす・・・・目的をなくす
- 2. 環境改善・・・・・・ 居心地を悪くする
- 3. 囲い込む・・・・・寄せ付けない
- 4. 追い払う・・・・・・恐怖心を与える
- 5. 捕獲する・・・・・ 捕まえてしまう

集中的に取り組まれているのは3,5 原因となる1,2を解決することが必要

集落・農地環境によくある問題点

- 茂み、潜み場、遊び場がある
- 通いなれた侵入路がある
- 放棄果樹など無防備の餌がある
- 収穫後のほ場に餌となる緑草がある
- ・ほ場の隣が生息地になっている
- ・集落・農地が餌場になっている
- ・防御、捕獲の効果が出にくい

例:環境に大き〈影響されるイノシシの行動

- ・伐採地内のぬた場へのイノシシの訪問は伐採開始から 2ヵ月半は皆無になった。伐採前の状態ではイノシシは 通る場所を選択していないが、伐採後は開けた場所を 避けていた。(滋賀県立大学報告より)
- ・イノシシは広葉樹林、水田放棄地、竹林を選択的に利用している(小寺ほか2001)
- ·河川敷の放牧により集落下流側からの侵入は激減した。 (新温泉町F集落)
- ・イノシシの侵入場所を1m草刈したらとりあえず侵入が止まった(農家談)

野生動物の行動

環境の変化に敏感 本来臆病なため環境の変化を避ける (しかし、やがて慣れる)

環境を改善し居心地を悪くする

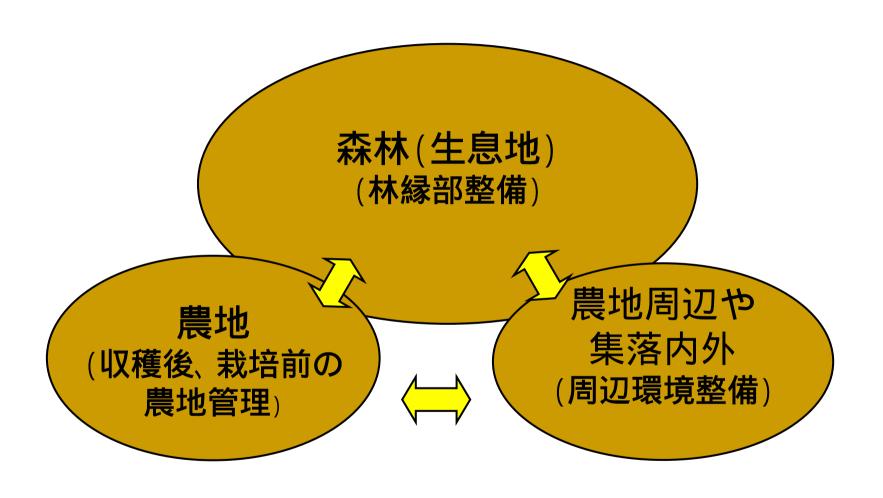
恒常的な人の立ち入り

見通しが良い、身を隠せない バッファーゾーン整備、 耕作放棄地対策、放牧

餌が少ない
放棄果樹伐採、冬場の緑草を無くす



「集落を餌場にしない。お馴染みさんを作らない」

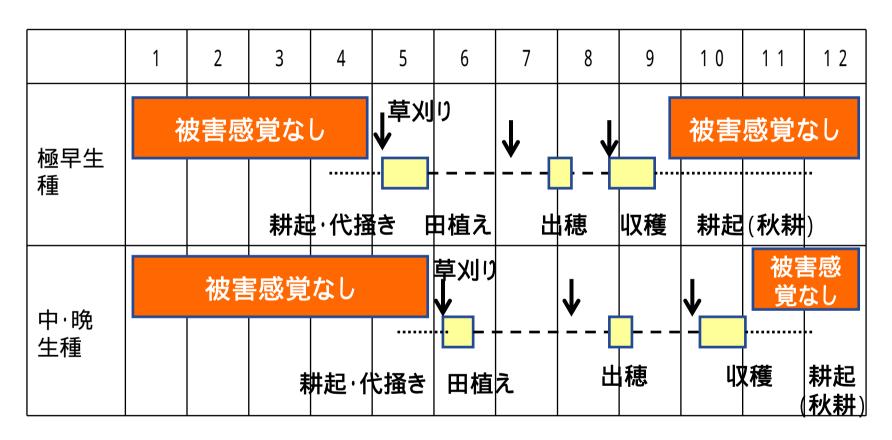


野生動物出没の目的をなくす、モチベーションを下げる、人慣れを防ぐ、生息地の拡大を防ぐ

農地の環境管理



稲作の作業体系と被害感覚



被害感覚のない収穫後の水田もしっかりと管理する

・・・ほ場 + 農地周辺の環境管理

シカ食害調査ほ場



2010年11月18日 佐用町

調査ほ場の変化



9月21日(設置)



11月18日



11月1日



12月16日(調査)

区によるヒコバエ・緑草量の違い

残草なし(全て採食)

食害区 緑草



食害区 緑草



防護区 ヒコバエ



防護区 緑草

厳冬期の水田



厳冬期の水田(緑草帯の出現)

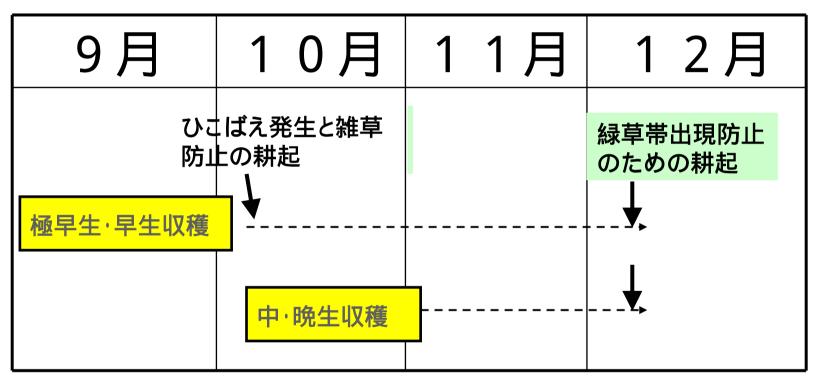


冬期の集落に見られる草地の状況

土地区分	最終管理 作業時期	使用機器	生草量 (kg/10a)
林道のり面	6月上旬	チップソー	0 ~ 1 0 0
休耕田	8月中旬	チップソー	0 ~ 2 0 0
果樹園	9月下旬	乗用モア	400~1600
林道路肩	10月上旬	チップソー	600~1000
ため池堤防	10月中旬	チップソー	2 1 0 0 ~ 2 5 0 0
水田	10月下旬	トラクタ(耕耘)	7 0 0 ~ 1 2 0 0
自家菜園	1 2 月上旬	くわ + 管理機	0 ~ 1 0 0
水田	1 2 月下旬	トラクタ(耕耘)	0
林道のり面	-	-	0 ~ 1 0 0

井上雅央・金森弘樹共著「山と畑をシカから守る」より一部引用

稲収穫後のほ場管理



井上雅央・金森弘樹共著「山と畑をシカから守る」より引用

・ロータリーの回転数は高め(ヒコバエ、雑草を埋没させる)。

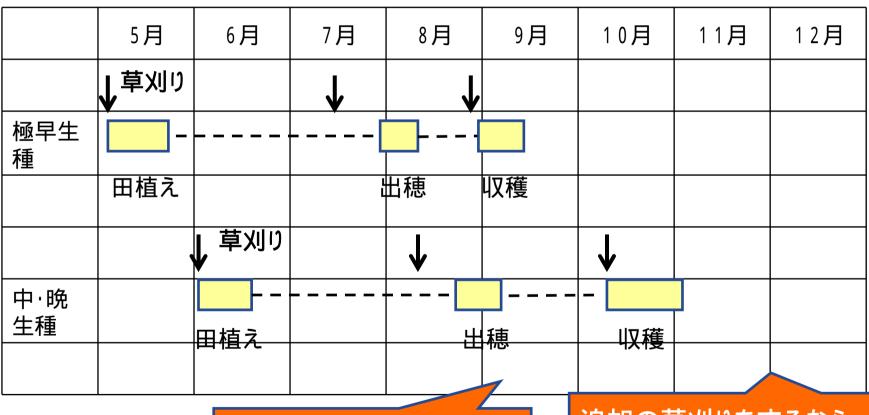
栽培管理によるヒコバエ・緑草対策

- ・ヒノヒカリ等熟期の遅い品種の作付け。
- ・極早生品種の作付けでは6月上旬の 遅植が効果的。
- ·窒素肥料の抑制、特に後期追肥を控える。

緑草対策に配慮した畦草刈りの時期

- 1)最終の畦草刈りのタイミング
 - ・8月中旬までに草刈りを終えると冬場の緑草が少な い・・・見て〈れが悪いが。
 - ・11月下旬以降の草刈り後は雑草が発生しに(い。
 - ・9月~10月の稲刈り直前に草刈りをして放置すると 最悪・・・11月下旬以降に追加の草刈り。
- 2)水利施設・休耕田等の畦草刈り
 - ・ため池の堤防、休耕田等は8月中旬までに草刈りを - 終える。

畦草管理の考え方



草刈りは必要最低限

追加の草刈りをするなら ば11月下旬以降

集落における環境管理

潜み場、遊び場、侵入路対策 放棄果樹対策

















<ポイント>

人間による環境の 変化の効果

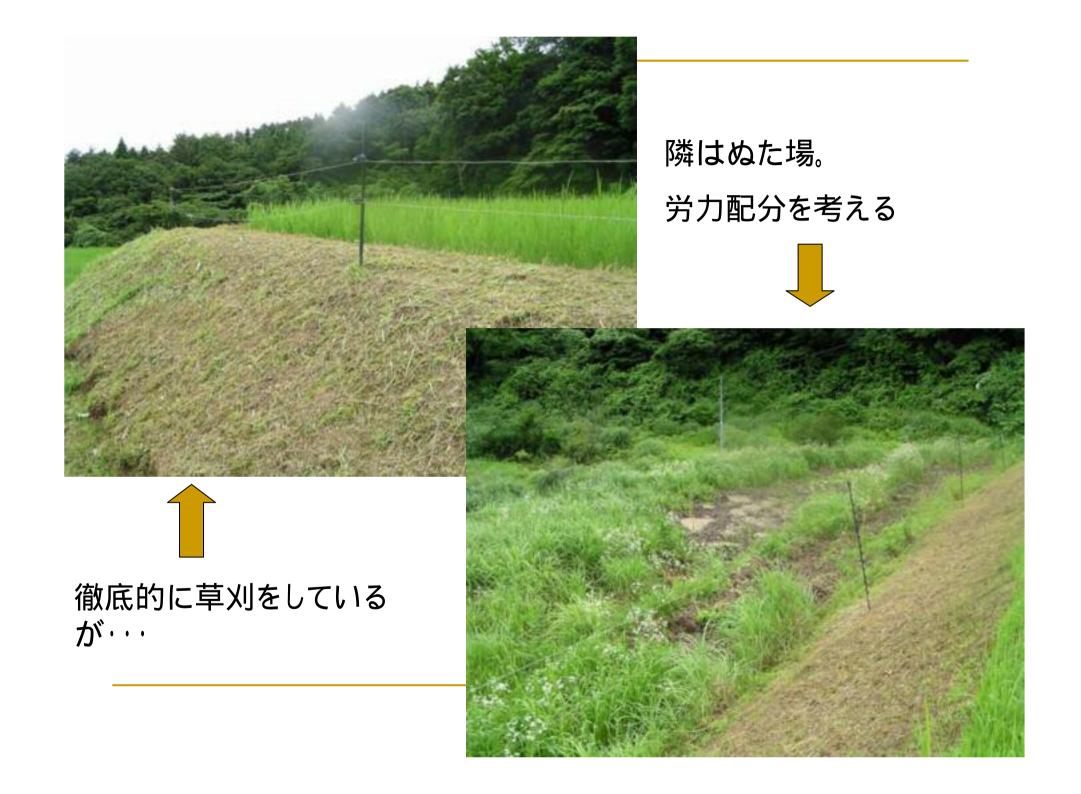
見通しの良い環境

環境管理で馴らさない





柵の内側の潜み場対策







家畜・ペットの利用

イノシシの侵入経路となっている河川敷で放牧をする

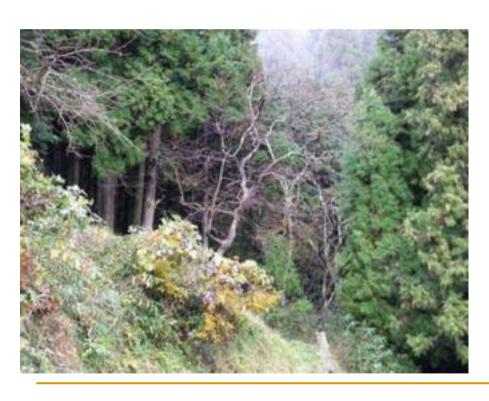
サルの侵入経路となっている場所を刈り払いし犬の散 歩場所にする。





放棄果樹対策

誘引物除去としての環境 管理















必要なものは管理、不要なものは除去の原則

木を切る

管理できない場合は、 木を切ることをお勧 めします。



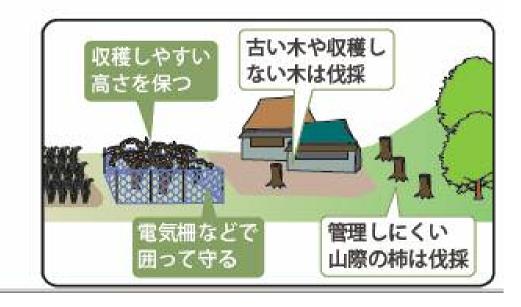
木を低くする

木を低くすれば、 管理も収穫もしや すくなります。



計画的に管理

柿の実がおいしいのは、品種にもよりますが、樹齢 30 年頃までです。良い品種の若い木を残して、しっかり防護し、きっちり収穫しましょう。





カキの木剪定

利用する果樹はしっかり管理 営農管理に獣害対策を取り入 れる

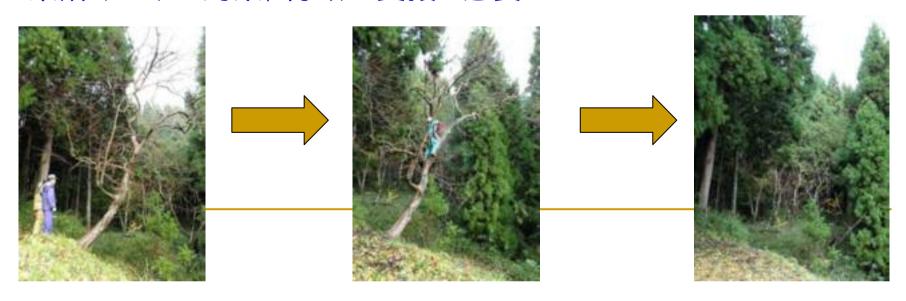






木を切るには技術が必要

危険作業であり、家屋、構造物の破損を避けるための技術が必要 集落ぐるみの対策、行政の支援も必要









伐採後、条件により玉切り、 搬出、残渣処理等



材・燃料 としての 活用も





